

## 会 議 録

会議の名称	令和3年度第1回上尾市地域創生総合戦略審議会		
開催日時	令和3年10月29日(金) 14:00~15:55		
開催場所	議会棟4階 全員協議会室		
議長(委員長・会長)氏名	上尾市地域創生総合戦略審議会 会長 佐藤 徹		
出席者(委員)氏名	佐藤 徹、長沢 純、樋口 敦、池田 達生、中込 英久、吉田 裕、 本田 直子、佐々木 毅彦、宮内 礼子、國嶋 亮子、金子 一夫、竹中 健司		
欠席者(委員)氏名	新道 龍一、内田 富美代、関谷 真司		
事務局(庶務担当)	行政経営部長 小田川 史明、行政経営部次長 池田 将寛 行政経営課長 本郷 美代子、行政経営課主幹 佐藤 浩 行政経営課副主幹 周 曉蘭、行政経営課主任 三浦 直人		
会 議 事 項	1 議 題	2 会議結果	
	1 開会 2 会長及び副会長の選任 3 会議の公開について 4 議題 (1) 令和2年度実績に基づく上尾市地域創生総合戦略の 評価について (2) 定住促進アンケート報告書について (3) その他 5 閉会	報告・説明と質疑応答	
議事の経過	別紙のとおり	傍聴者	1人
会議資料	別紙のとおり		
<p>議事のでん末・概要に相違なきことを証するため、ここに署名する。</p> <p style="text-align: center;">令和3年12月10日</p> <p style="text-align: right;">会長の署名 <u>佐藤 徹</u></p> <p style="text-align: right;">議事録署名人 <u>宮内 礼子</u></p>			

## 議 事 の 経 過

司会 (行政経営部長)	<p><b>1 開 会</b></p> <p>定刻になりましたので「令和3年度第1回上尾市地域創生総合戦略審議会」を開会します。</p> <p>本日は委員の皆様が今年度初の顔合わせとなること、新たに委嘱をされたということで、最初に委員及び事務局の自己紹介を行います。</p> <p style="text-align: center;">【自己紹介】</p>
司会	<p>本日の審議会ですが条例第6条第2項の規定に基づき、委員の過半数の出席がありましたので有効に成立していることをご報告します。</p>
司会	<p><b>2 会長及び副会長の選出</b></p> <p>それでは、次第の2「会長及び副会長の選出について」です。</p> <p>条例第5条第1項により「会長及び副会長1人を置き、委員の互選によってこれを定める。」となっていますが、いかがいたしましょうか。</p>
司会	<p>特に無いということですので、事務局に一任でよろしいでしょうか。</p>
委員	<p>(異議無しとの声あり)</p>
司会	<p>それでは、事務局案を提案させていただきます。</p>
事務局 (行政経営課長)	<p>それでは、事務局より会長及び副会長案を提案させていただきます。</p> <p>会長に佐藤委員、副会長に長沢委員の再任を提案させていただきます。</p>
司会	<p>事務局より提案がございましたが、いかがでしょうか。</p>
委員	<p>(異議無しとの声)</p>
司会	<p>特にご異議が無いようですので、会長は佐藤委員、副会長は長沢委員に決定しました。</p> <p>それでは、会長に就任のごあいさつをいただきたいと思います。佐藤会長、よろしくお願いいたします。</p>
会長 (佐藤委員)	<p>それでは、会長就任ということで一言皆様方にご挨拶申し上げます。本審議会の大テーマは、まさに地方創生です。国では令和2年12月21日に、「第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略(2020改訂版)」が閣議決定されました。その総合戦略に掲げられた基本目標と、その基本目標を達成するために作成された政策パッケージと個別政策について、「まち・ひと・しごと創生基本方針2021」として、令和3年6月18日に閣議決定されています。上尾市はどうかというと、ご承知のとおり令和3年度から令和7年度までの5ヶ年計画として、第2期上尾市地域創生総合戦略がスタートしています。第1期上尾市地域創生長期ビジョンで示された将来推計人口は、年々人口減少することが予想されていましたが、その後事務局からも説明があるかと思いますが、現実には人口が増えています。ただし、これを手放しで喜ぶことはでき</p>

	<p>ないと思います。人口は確かに増えましたがその年齢構成を考えてみた場合、果たしてこのままで良いのかどうか、特に若年層が減ってきているということ、それから人口増加がこれまでの行政の努力によるものであるのかどうか、はたまた外部要因によるものであるのかどうか、この辺りをしっかりと評価し、要因分析を行い、対策を立てていく必要があるからです。本日は、第1期計画の最終年度にあたる令和2年度の実績評価が議題として上がっていますが、今申し上げた観点から評価いただければと思いますので、どうぞよろしく願いいたします。</p>
司会	<p>ありがとうございました。続きまして長沢副会長お願いいたします。</p>
副会長 (長沢委員)	<p>それでは、副会長就任にあたり、ご挨拶申し上げます。先程会長の方から会議にあたってのお話がありましたが、地方創生総合戦略は、上尾市にとって外部要因ではなく、上尾市独自で作り上げ、そして、人口増、魅力あるまちづくりに方向づけできるように、この審議会で一步前進できるように皆様にご協力をいただきますようお願い申し上げます、挨拶とさせていただきます。</p>
司会	<p>ありがとうございました。それでは、条例第5条第2項の規定によりまして、この後の進行は、佐藤会長にお願いいたします。</p>
会長	<p><b>3 会議の公開について</b></p> <p>それでは、只今から議事の進行を務めさせていただきます。 次第の3「会議の公開について」事務局より説明をお願いいたします。</p>
事務局	<p>本審議会については、「審議会等の会議の公開に関する指針」に従いまして同指針策定後の初めての審議会において「原則公開」ということで採決されていることをご報告させていただきます。</p>
会長	<p>それでは、事務局に確認します。本日、傍聴を希望される方はいらっしゃいますか。</p>
事務局	<p>傍聴者が1名いらっしゃいます。</p>
会長	<p>ただ今から傍聴者に入場していただきます。事務局は、傍聴者を入場させてください。</p> <p><b>【傍聴者入場】</b></p>
会長	<p>傍聴者はお配りした「傍聴要領」を遵守していただき、会議のスムーズな進行にご協力をお願いします。</p> <p>次に、議事の正確性を証するため議事録に署名をお願いしたいと考えております。議事録署名人につきましては、出席委員の中から1名、会長の私より指名させていただきたいと思いますがよろしいでしょうか。</p>
委員	<p>《異議無しの声》</p>

会長

それでは、議事録署名人を指名させていただきます。本日の会議の議事録署名人は宮内委員さんをお願いいたします。

#### 4 議題

会長

それでは、次第の4「議題」に入ります。議題(1)「令和2年度実績に基づく上尾市地域創生総合戦略の評価について」事務局より説明をお願いします。

事務局

お手元に資料1「地域創生総合戦略評価シート(令和2年度実績)」をご用意いたします。

令和2年度実績ということで、本来でしたら8月に審議会を開催の上、ご報告する予定でしたが、コロナ禍での緊急事態宣言の延長に伴い本日まで延期させていただいた次第です。

先ほど佐藤会長からもお話いただきましたとおり、すでに令和3年度の半ばを迎えています。議題(1)については、令和2年度までの第1期総合戦略の取組に対する最終報告となることをご理解いただきたいと思います。

総合戦略においては、3つの基本目標を設定し、それぞれに数値目標を掲げています。基本目標は、「安定した雇用を創出する」、「出産・子育ての希望をかなえる」、「健やかな暮らしを守り、魅力あるまちを創る」となっています。その中で基本方向や重点政策を掲げており、その取組の効果測定を重要業績評価指標(KPI)と呼ばれるものを用いて分析評価を行うこととしています。この毎年の報告においては、昨年度の進捗状況を報告していましたが、今回は令和2年度が計画の最終年度ということで、最終的な結果を報告します。この最終的な結果については、総括表に「達成状況」、「達成率」として表記しています。達成というのは、左にあります目標値を超えたものについて「達成」とし、達成率を100%としています。また、令和2年度の目標値には届かないものの、取組を始めた平成26年度の基準値よりは実績として良くなったものについて「一部達成」とし、その程度によって達成率を算出した次第です。結果として、「達成」が9項目、「一部達成」が5項目で、「未達成」が9項目と、達成率52%という結果となりました。あまり良くない結果、割合となりましたが、主な要因としては令和2年度の実績がコロナの影響を受けたものが多かったことがあります。これについてはこの後個別シートで説明させていただきます。もう1点、第1期総合戦略については、当初は平成31年度までの計画期間でしたが、上位の計画である総合計画が令和2年度までの計画期間となっていたため、総合戦略についても総合計画に計画期間を合わせるべく、令和2年度まで延長しました。その際に令和2年度末までの目標値について、平成31年度の途中で改めて設定し直した経緯があり、その頃はまだコロナを推測できる余地がなかったため、順調に推移していた指標については、より高い目標値を設定していたものもあり、実績が目標値とかけ離れてしまった指標もございました。次に総括表の一番右の○がある「重点施策の第2期への引継ぎ」という項目ですが、今年度からスタートしている第2期総合戦略に重点施策として引き継がれているものを指しています。基本的には概ね第2期も方向性は変わらないものという認識でいただければと思いますが、先ほど申し上げたそれぞれの指標については、そもそも指標として適切かどうかという判断も昨年度の審議会でも議論いただき、置き換えを行っているものもございます。

それでは各取組について説明します。1ページをお願いします。数値目標「市

内法人の従業者数」です。令和2年度目標値5万7,657人に対し、実績値は6万2,826人で達成となりました。先ほどコロナの影響があると説明しましたが、従業者数のみならず、市内の法人数も令和2年度は増加しており、達成となりました。

2ページをお願いします。「法人市民税額」です。13億6,600万円という目標値に対し、実績値は15億10万円で達成となりました。なお、平成31年度と令和2年度で目標値が違っていますが、平成28年に税制改正があり、平成30年度以降法人税割の税率が下がることとなったため、令和2年度の新たな目標値を設定する際にその分を見越した下方修正を行った結果ですが、想定した減収よりも緩和されたという結果となりました。

3ページをお願いします。「農商工観ポータルサイトアクセス数」です。ポータルサイトを上尾市で開設していたのですが、平成30年度末で終了したため令和2年度の実績はございません。ただし、こちらについてはTwitter、SNS上での情報発信は継続して行っています。

4ページをお願いします。「新たに民間事業者等に委託した事務事業数」ということで、令和2年度は6件の目標に対し、同じく6件の実績となりました。広報あげおの配送業務の委託の開始により、前年度より1件増えました。

5ページをお願いします。ここから基本目標2「出産・子育ての希望をかなえる」となります。まず数値目標として「年少人口」です。令和2年度目標値2万7,837人に対し、2万7,285人と目標値に552人届いていません。様々な要因が考えられますが、即効性のある施策の実施には至っていないという現状があります。また、市だけの取組ではなく、子育て・出産については、国をあげての取組でもあります。上尾市としては、あげお版ネウボラなどの取組を続けていきたいと思っています。その下の数値目標「子育て支援の満足度」については5年に1回の調査に基づいているものであり、令和2年度の実績はございません。

6ページをお願いします。「出生者数」です。令和2年度目標1,591人に対し、実績は1,466人でした。先ほどの年少人口と同様で、市だけの取組だけでは難しい部分があるため、こちらについても引き続きあげお版ネウボラを継続して推進していきたいと考えています。

7ページをお願いします。「保育施設定員数」です。3,751人という目標値に対し、3,583人で未達成となります。保育所の整備については、令和2年度新たに2つの民間保育所の整備を行ったほか、公立保育所及び小規模保育事業所の定員枠の拡大を行いました。一方で公立保育所の2園が閉所となったため、計画どおり進むことができませんでした。

8ページをお願いします。「地域子育て支援拠点の利用者の延べ人数」です。目標9万5,640人に対し、実績は2万5,723人と、こちらについてもコロナの影響を大きく受け閉館となっていた時期があったこと、緊急事態宣言が明けた後は再開していましたが人数を制限して三密を避ける対策をとっていたため、大幅な減少に至ったところです。

9ページをお願いします。「児童・生徒・保護者の学校満足度」です。目標100%に対し、実績は93%でした。こちらについてはアンケートの結果に基づくものですが、前年実績と変わらない結果となり、コロナ禍で教育の質、学びの場の維持という結果となったところです。

10ページをお願いします。「学校応援団の延べ活動日数」です。1万5,000日の活動日数の目標に対し、実際は6,954日と、こちらについてもコロナに

よる臨時休校等により活動日数が各校とも減少した結果となっています。

11 ページをお願いします。ここからは基本目標3「健やかな暮らしを守り、魅力あるまちを創る」です。まず数値目標として「転入超過の数」です。2,482人という目標に対し、実績は4,011人です。こちらは累計となりますので他の指標とは若干作りが違っております。令和2年度単年度で見ましても、記載にありますとおり、1,430人の増となります。この結果については、令和2年度は大規模なマンション建設があったことや、区画整理事業による宅地開発が進んだことが要因として考えられますが、この審議会でも取り上げております定住促進施策の結果によるものも要因として考えられると思います。その下の数値目標「定住意向の割合」については、5年に1度の調査であり、令和2年度の結果はございません。

12 ページをお願いします。「土地区画整理事業により形成した住宅地へ定住した子育て世帯数」です。累計の目標443世帯に対し、実績は564世帯です。単年度でも58世帯の増加となります。市内では土地区画整理事業を2ヶ所で実施していますが、その住宅の形成が進んだ結果となります。一方で2ヶ所とも間もなく区画整理が終わりを迎える時期であるため、単年度の実績が鈍化している傾向にあります。

13 ページをお願いします。「住環境に対する子育て世帯の満足度」です。こちらはその後議題(2)で取り上げる転入者に対するアンケート結果を反映させています。住環境の問いに対しては、「満足」、「まあ満足」、「普通」と回答した人が94%になったという結果であり、目標の90%を上回っています。

14 ページをお願いします。「鉄道事業者への要望に対し改善が図られた数」です。目標9件に対し、実績は10件となりました。要望活動の内容については、通勤快速の上尾駅停車、東大宮駅停車をそれぞれ以前から要望活動を行っていましたが、今年3月のダイヤ改正において高崎線、宇都宮線ともに全ての快速電車の上尾駅及び東大宮駅の停車が実現されました。

15 ページをお願いします。「自転車レーンの整備延長」です。目標が8.5kmに対し、実績が6.4kmと、未達成となります。こちらについては警察協議が難航していることや、整備の財源である交付金が十分確保できなかったため、目標どおりに進んでいないところです。

16 ページをお願いします。「胃がん検診受診者数」です。目標4,500人に対し、実績が2,762人です。こちらについては、コロナの影響を受けており、検診事業が中止となったこと、感染予防のための受診控えが起こっており、目標の達成には至らなかったところです。同様に17ページ「肺がん・結核検診受診者数」、18ページ「後期高齢者健康診査受診率」についても同様の要因により、目標値に届いていません。

19 ページをお願いします。「アッピー元気体操参加者数」です。コロナの影響で令和2年度にアッピー元気体操自体が中止となったため、令和2年度はアッピー元気体操の登録者数を記載しています。アッピー元気体操が実施されていないこと、外出を控えるという要因が重なったため目標に至っていないところです。

20 ページをお願いします。「60歳以上の図書館における図書貸出利用者数」です。図書館においても緊急事態宣言による臨時休館のため開館日数が減ったことから未達成となっています。

21 ページをお願いします。「公民館における健康・スポーツ関連講座の参加者数」です。こちらについてもコロナの影響で事業の実施が制限されていた



<p>会長</p>	<p>ため大幅な減少となっています。 事務局からの説明は以上です。</p> <p>事務局から行政側の自己評価と言って良いと思いますが、令和2年度実績に基づく上尾市地域創生総合戦略の評価について説明がありました。委員の皆様よりただいまの説明ないしは資料1についてご意見、ご質問等ございましたらお伺いします。</p>
<p>樋口委員</p>	<p>5ページの年少人口ですが、ずっと遅れてきていて令和2年度についても未達成ということでした。説明の中で即効性のある施策があまりなかったということで、対策と今後についてはあげお版ネウボラを続けていくという説明だったかと思いますが、このままだと今後も達成できない状況が続くのではないかと考えられます。その辺について、例えば今後新たな施策を打っていくといったことなどについていかがでしょうか。</p>
<p>事務局</p>	<p>おっしゃるとおり、年少人口とこの後の出生者数は上尾市に限らずどこの自治体でも大きな課題と認識しています。当市においては、まずは総合戦略により転入者を増やす取組を今までも行ってきましたが、それに関しても国全体で年少人口が少ないということで限界があるため、上位計画である総合計画においても、令和3年度からいわゆる妊活とか結婚支援も含めて推進していきたいという計画を立てています。</p>
<p>樋口委員</p>	<p>確かに国の施策といったところも大きな影響があるかと思いますが、例えば隣のさいたま市と比べると、データの数字が合っているかわかりませんが、さいたま市では6年連続で0歳から14歳の転入超過が全国一という結果もありますので、例えばさいたま市に無いような施策を今後打っていくといったところでも、例えば転入される方がさいたま市か上尾市か迷ったときに、上尾市に来てもらえる施策が今後何か良いものができれば良いなと思っています。</p>
<p>事務局</p>	<p>担当部も交えて一緒に進めていきたいと思います。</p>
<p>本田委員</p>	<p>子育てというところで人口の増加、出産の増加を見込むには、やはり子育て環境を良くしていくということが何より重要かと思っています。資料2でアンケート調査による要望などが書いてありました。やはり他市との比較というところが結構目につき、その中でも医療費の問題、上尾市では15歳まで無料ですが、他市では18歳まで無料というところもあります。そういう具体的なところから取り組むことを市の子育て支援計画の中にも盛り込んでいただければ、人口増加、出産の増加にもつながるのではないかと思います、いかがでしょうか。</p>
<p>事務局</p>	<p>おっしゃるとおり、総合戦略とは別に、本市には上尾市子ども・子育て支援事業計画というものもございます。先ほどの樋口委員のお話でもありましたが、他市と比べて、市も選ばれないといけない時代ですので、他市との比較も合わせて、子どもの医療費についても検討していきたいと考えています。</p>

池田委員	1 ページの「市内法人の従業者数」で、令和2年度6万2,826人と増えているわけですが、具体的にどういう要因で増えたのか、先ほど事業所が増えたと説明がありましたが、どのくらい増えたのかお知らせください。
事務局	前年よりも6,000人ほど従業者数が増えています。それぞれの会社の従業者数が増えた部分があれば、大きな要因として、イオンモールの開業、Amazonの物流倉庫の稼働が両方とも令和2年であり、合わせますと1,000人超の新たな雇用があったと伺っています。また、法人数について、令和2年度の結果で申し上げますと、新たに設立・開設されたのが313法人で、閉鎖、解散と倒産も含め無くなったのが205法人、差し引き108法人が増加した結果となっています。
池田委員	108法人というのは、中小企業も含めた数値ということよろしいですか。
事務局	そのとおりです。
池田委員	4ページに新しく広報誌等配送委託料というのが入っています。議会で問題にもなりましたが、配達されない場所が出たことについてどの程度解決しているのか伺います。
事務局	広報誌等発送業務の委託について、まずは今までとの違いを説明させていただきます。今まで毎月発行している広報誌については、印刷業者が各自治会に納品をし、各地域の区長さんがそれぞれ自分の班の分を仕分けし、地元の役員だけで配布を行っていました。区長制度が廃止となったこと、こういったものこそ民間の力を借りた方が良いのではないかという経緯の中で、令和2年度から広報あげおの配送を戸別配布いわゆるポスティングという形で委託をした経緯があります。今までは回覧板の様に少数の単位で地域の中で行われていたものが、一つの委託業者から一括で配布されるような仕組みとなったため、届かないといった問い合わせが来ておりました。それにつきましては一つ一つの問い合わせに対し委託業者に対して指導を行い、次回から今までの分も配達するようということを示しております。どうしても空き家であるとか、二世帯住宅であるといったところで現在も若干問い合わせはあるようですが、年度が始まった昨年5月に比べほぼ解消されたというふうに考えてよろしいかと思えます。
池田委員	了解しました。次に11ページに「転入超過の数」というのがありますが、令和2年度が4,011人ということで目標よりも遥かに高い数値を示しています。単年度でも、1,430人ということですが、世帯数だとか、独身といった内訳についてはわかりますでしょうか。
事務局	まず単年度の1,430人は人数ですので、市内在住の世帯に誰かが入ってきたという場合等もあり、純粋に転入世帯が何世帯というのは判然とはしていません。参考として、転入者数が9,869人で転出者数が8,439人であり、この差で1,430人となります。
池田委員	その中で、例えば外国人についてはどのくらいいるかという把握はできて



事務局	<p>いますか。</p> <p>外国人の転入、転出数までは手元で把握できていませんが、4月1日時点での比較で申し上げますと、令和3年4月1日の外国人が4,072人、1年前の令和2年4月1日の外国人が3,830人となります。出生、死亡もありますが242人の外国人人口の増となります。</p>
竹中委員	<p>14ページ「鉄道事業者への要望に対して改善が図られた数」ということで、実績値は平成27年度からの累計値だと思いますが、上の基準値と目標値のところを見ると、平成31年度の目標値が5件で、令和2年度の目標値も5件ということで、令和2年度は特に改善する件数というのを見込んでいなかったという認識でよろしいでしょうか。今後の見通しのところを見ると、改善された件数の増加を図ると書かれているので、増えていくのかと思って見ていたのですがここは特に変わってなく、累計で見ると達成ということは、すでに平成31年度には達成しており、平成31年度に達成しているということは令和2年度も当然達成ということが言えるという理解でよろしいのかどうかということと、あとは重点ポイントを見ると、橋りょうや道路の新設等を行うといった道路の安全対策の実施、循環バスの乗降客数調査、鉄道事業者へ要望活動を実施していくとありますが、直接の鉄道事業者への要望活動という記載もありますがそれ以外のことも書かれていることについて、鉄道事業者への要望とあるが交通全体に対しての重点ポイントという認識でよろしいでしょうか。また、単年度に県の要望が達成されたものについてどういったものがあるのか、上尾駅と東大宮駅においてそれぞれを1件と捉えて合計2件となっていると理解したがその辺について教えていただければと思います。</p>
事務局	<p>まず、平成31年度の目標値が5件に対し、平成30年度の段階で累計8件となっていたため、令和2年度の目標値を新たに設定する際に8件を上回る9件と設定した次第です。また、重点ポイントについてはおっしゃられるとおり14ページの一番上の行にございます重点政策「快適に通勤通学ができる環境の整備」に対する重点ポイントとなるので、鉄道のみならず自転車やバス等を含めた説明となっています。誤解を招く表現で申し訳ございません。単年度の件数については、おっしゃられるとおり、高崎線通勤快速の全ての便の上尾駅停車という要望項目と、宇都宮線通勤快速の東大宮停車という項目に対し、2件という結果です。</p>
佐々木委員	<p>13ページ「住環境に対する子育て世帯の満足度」ですが、令和2年度に転入者に郵送でアンケート調査を行ったということですが、これは転入されてからどのくらいの期間が経った人を対象としているのか、平成30年度と平成31年度にアンケートを実施されていない様なので、その過去3年間にわたって転入された方に対するアンケートだったのででしょうか。転入されてすぐの方が、一定期間を過ぎた方が、転入された時期によってもニュアンスが違ってくるかと思い、教えていただければと思います。</p>
事務局	<p>このアンケートの詳細についてはこの後の議題(2)で報告させていただきたいと思っておりますが、満足しているかどうかというような点について隔年</p>

	<p>で定点観測的に各調査することを考えており、平成30年度と平成31年度は実施をしませんでした。その前になると平成29年も同様の調査をしていますが、そのときは3月1日から10月31日までに転入した方について、翌年の2月に調査をしています。一方で、この後の議題になりますアンケート調査は、資料2の17ページにアンケートの設定条件を記載しているとおり、昨年12月にアンケートを送付し、その対象としては昨年の3月から8月までに他市町村から転入された方となっています。前回も今回も短い人で転入後6ヶ月、長い人で転入後1年未満の方が対象となっています。</p>
副会長	<p>各ページの下のところ※マークがあり、「交・・・地域創生関連交付金活用事業」、「新・・・総合戦略にもとづき新規に実施する事業」、「拡・・・総合戦略にもとづき拡充して実施する事業」となっていますが、「交」がどのページを見ても無いのですが、これは国の示している地方創生関連交付金が充当できるものはなかったという解釈で良いのか、それとも手を挙げなかったのかその辺をお聞かせ願えればと思います。</p>
事務局	<p>地方創生関連交付金として今回掲げられているもので、実施したものはございません。なお、昨今の地方創生臨時交付金といわれるコロナ対策の交付金は、地方創生関連交付金には含めないものとして考えています。</p>
副会長	<p>それであれば、当初から地方創生関連交付金を想定してここに書いてあるのでしょうかから、この6年間活用できなかったというのはなぜなのか、活用するという意識でもって、交付金を探していなかったのではないのか、マッチングを図るといった観点で不足していたのではないのかという様に想像されてしまいますがその辺の見解をお伺いします。</p>
事務局	<p>改めて確認させていただきますが、活用実績がなかった場合こちらとしても検討不足であるということも考えられます。</p>
池田委員	<p>15ページについて、先ほど警察協議が難航したという説明があり、経過の考察にも「計画的に取組を継続しているが、社会情勢の変化に伴い警察協議が難航したこと」と記載がありますが、社会情勢の変化に伴い警察協議が難航したということは具体的にはどのような内容でしょうか。</p>
事務局	<p>社会情勢の変化については、直近のことで申し上げますとコロナの影響があります。自転車レーンを必要とする根拠として、こちらとしても自転車の利用者が多いから整備をしているところではありますが、コロナによりそもそも通勤をしない、もしくはテレワークなどにより事業所に行かないことで交通量、需要が変化しているといった背景があります。</p>
池田委員	<p>難航したというのは特別何か難しい問題あると理解して良いですか。</p>
事務局	<p>特別というよりは警察の方も要望が圧倒的に多い状況の中で必要性を鑑みないことであり、また、実際の整備にあたり幅員が当然必要となりますのでこの協議が出てきます。</p>

樋口委員	14 ページの鉄道事業者への要望のところですが、要望というのは誰がどういった会議で出したものなのか、その辺がわかれば教えていただきたいです。
事務局	交通防犯課という課で上尾市として求むべき要望を取りまとめ、市長がJR東日本等に要望活動を行っています。
樋口委員	そうすると、交通防犯課に市民の方から寄せられた要望という認識でよろしいですか。
事務局	はい。市民及び事業所等の要望を取りまとめています。
副会長	今の説明はちょっと違うのではないのでしょうか。鉄道輸送力推進協議会の中で審議し、それを要望として市長名で出しているということではないのでしょうか。交通防犯課が市長に出してという話ではないので、そこは認識が違うので改めてもらえればと思います。
行政経営部長	誤解があったようで申し訳ございません。交通防犯課において、地域交通活性化協議会、鉄道輸送力増強推進協議会といった協議会の事務局を担っており、各協議会の代表として市長に各団体の要望を行っているというのが正確な言い方です。
副会長	そうすると市民の方からの要望というのは、そういった協議会上がってくるのでしょうか。
行政経営部長	交通でも様々な要望がありますが、小さなものでいえば、例えば警察に対して信号をつけて欲しいといった要望については、自治会長が直接地元の意見を取りまとめて交通防犯課に要望書としてあげるといったものから、大きいものでいえば、例えば市内循環バスやタクシー業界との交通協議等は、協議会を設置して実施しておりますので、ものによって違います。
金子委員	鉄道だけで指標を作ってJR高崎支社の方に要望を行っているという中で、2件の達成というのは非常に少ないという印象がありますが、それについてはいかがでしょうか。
事務局	例えば、終電を遅らせるといったこちらの要望だけでは難しいものも含まれているため、なかなか実現には至らないといったところです。
池田委員	11 ページの「定住意向の割合」について、経過の考察に「次回調査：令和5年度」とあり5年に1回の調査と記載がありますが、この5年に1回の調査というのが本当に妥当なのかどうか、調査の間隔が離れていて正確な数値が読み取れるのかどうかについて見解を伺います。
事務局	指標で評価を測るとしているものが5年に1度の実施というのは正直なところ事務局としても説明が苦しい部分でもあります。こちらについては、第2期総合戦略では毎年数値として測れるものに置き換えて推進するようにしています。

池田委員	<p>第2期総合戦略では毎年この市民意識調査を行っていくということでしょうか。また、ここに記載されていることの整合性というものはどうなのでしょう。</p>
事務局	<p>市民意識調査について5年に1度の実施を毎年の実施に変えるという意味ではなく、「定住意向の割合」という指標を別の指標に置きかえることによって毎年の進捗を測るといって変更しています。</p>
会長	<p>定住意向の把握をするための市民意識調査の頻度が5年に1回というのは非常にスパンが長いのではないかとすることは、第1期総合戦略を策定する過程においてもこの審議会で意見として出た記憶があります。もう少しこの調査の頻度を高めることができないのかという様なご意見もある委員から出たと記憶しており、私も同感でしたが、自治体においてこの市民意識調査については様々な名称がありますが、2年に1度行っている自治体や毎年調査をしている自治体と様々です。上尾市の場合は5年に1度行っているということですが、重要な数字がこの調査によって把握できるわけですから、5年に1度で妥当なのかどうかという疑問が呈されるのは自然なものだと思います。予算も必要なことですので検討いただければと思います。</p>
國嶋委員	<p>自分が子育てをしていた時に思っていたことですが、親はさいたま市を選んで住んでいるが幼稚園は上尾市を選ぶといった要素があると思いますが、今桶川市は高校生まで医療費が無料です。そういった他市で実施している上尾市ではまだ実施していないことを比較したり、こういうデータに反映されていたりするのでしょうか。</p>
事務局	<p>基本的にはここであげている項目について特に他自治体との比較はしていません。</p>
國嶋委員	<p>9ページの主な総合戦略実施事業について、令和2年度は中学生海外派遣研修事業についてはコロナにより行っていないと思いますが、予算の数字が他の年度とあまり変わっていないのはなぜでしょうか。</p>
事務局	<p>主な総合戦略実施事業の項目については予算ベースの金額となっています。また、おっしゃるとおり令和2年度中学生海外派遣研修はコロナにより実施していません。</p>
会長	<p>実績というのであれば本来は決算値や執行額で記載するのが、妥当な気はします。両方あった方がどれだけ使ったかわかるので良いかとも思いますが、私から最後に資料1について付け加えさせていただきます。内容は皆様方からご意見、ご質問を頂戴しましたので、全体を見て毎年表形式の数字が記載されたものを作っています。どうしても視覚的にわかりづらい部分があり、目標と実績を対比させるような形でグラフ化していただければと思います。そうすることで視覚的に目標からどれだけ遠ざかっているのか、あるいは近づいているのか、横ばいかといったことが見てわかるかと思えます。そういった工夫も検討していただければと思います。</p>

それでは続きまして議題 (2) 「定住促進アンケート報告書について」事務局より説明をお願いします。

事務局

資料2「定住促進アンケート報告書」のご用意をお願いします。こちらは昨年度末最後の審議会で速報値として一部ご案内させていただきました内容について、最終的な集計結果を報告させていただきます。

総合戦略等に基づいて定住促進に向けた施策の効果検証や今後の方向性等の検討等に使用するために、転出者、転入者各 500 人を対象に実施しています。転出者、転入者共に令和 2 年の 3 月から 8 月に転出または転入された方で、いわゆる子育て世代に当たる 20 歳から 49 歳までの方を対象に無作為抽出を行い実施いたしました。報告書は転出者、転入者の順となっています。また、郵送で送付したアンケートに対し、回答は返信用封筒で送るか、QR コードからネットで回答するかを選べる仕組としました。結果は 1 ページをご覧ください。対象者 500 人に対し、ネット回答が 68 人、郵送回答が 43 人で合計 111 人、回答率は 22.2%でした。2 ページ以降は質問項目の回答内容となりますが、1 ページに分析として回答内容を大まかにまとめました。転出者については、転出先は県外という方が約 6 割いました。居住形態としては、持家の一戸建てから賃貸のアパート・マンションへの転出が多い結果となりました。転出後の世帯構成は单身の方が多くということ、通算の居住年数が平均で 15.8 年ということがわかりました。6 ページの Q17 「転出することになった大きなきっかけは何ですか。」という問いに対し、複数回答ではありませんが、約半数強が「仕事の都合」と回答していることから、仕事の都合で一人暮らしを始めるなどといった形で賃貸の方に転出されることが多いと見てとれます。7 ページをお願いします。Q19 「転出先の市区町村を選んだ理由は何ですか。」に対し、複数回答ですが最も多いのが「職場・学校が近いから」、2 番目に多いのが「交通の便が良いから」、3 番目に多いのが「住宅価格・家賃が適当だから」ということで、ご自身の経済活動をベースとしたところが大きいと見てとれます。続いて Q21 から Q37 までは上尾市に対して満足していたかという要素毎の個別質問です。「普通」という回答が最も多いですが、例えば Q21 「住まいの住環境」や、Q25 「日常の買い物の便利さ」などについては比較的高い評価をいただいています。12 ページ Q40、13 ページ Q42、15 ページ Q43 については自由意見で記入いただいています。

17 ページをお願いします。こちらは転入者に対するアンケートの結果です。転出者と同様に調査対象は 500 人です。回答数はネットが 95 人、郵送が 70 人、合計 165 人で回答率が 33%と転出者より良い回答率となりました。分析ですが、転入者については約 6 割が 2 世代か 3 世代での同居の方で、20 ページ Q7 に詳細を記載していますが、転入後の家族構成で最も多かったのは 2 世代同居で親と子がいる構成でした。また、22 ページ Q17 「転入することになった大きなきっかけは何か」で一番多いのは「住宅の都合」、次に多かったのが「家庭の都合」でした。25 ページをお願いします。Q26 「転入先に上尾市を選んだ理由は何ですか。」で複数回答ですが一番多かったのが「住宅価格・家賃が適当だから」、続いて「交通の便が良いから」と、こちらも転出者と同様に経済活動を重視していると考えられますが、また、その次に多いのが「親や子どもの家に近いから」と、地縁、家族の縁なども重視していることが窺えます。Q28 から Q44 については転出者と同様に上尾市に対して要素毎の個別質問で、Q46、Q47 は自由記述となっています。このアンケート結

果については自由記述も含めて既に庁内で情報を共有しており、今後の施策の参考としています。

併せて参考資料ということで広報あげおの抜粋を用意しました。「選ばれるまち上尾市」ということで、令和2年度転入の状況、埼玉県が東京からの転入者が増えているという新聞記事等をご覧になっているかと思いますが、その埼玉県の中でも上尾市は県内で3番目に転入超過が多かったという結果に対し、どの様な理由が多かったのかということをお今回のアンケート調査を踏まえて掲載しています。先ほど池田委員からもご質問いただいた市民意識調査は5年に1度となっていますが、こういったアンケートで定住促進等に特化した部分は補完的に調査を行っていきたいと考えています。説明は以上です。

会長

定住促進アンケート報告書について事務局から説明がありました。こちらについて委員の皆様からご質問やご意見等、お気づきの点等ございましたら頂戴できればと思います。

佐々木委員

2点あります。転出された方、転入された方に対する質問項目ですが、すごく細かく取られているなという印象を受けました。しかし、マイナス面としては特にネット回答で、質問項目が多いと回答の途中で離脱する率も高いのではないかと思います。ですので、もっと質問を少なくして回答数が増える形を取られても良いのではないかと思います。1点目です。2点目ですが、アンケートを取られる際に「普通」を選べる項目がありますが、「普通」という項目は無くても良いのではないかと思います。よく飲食店で、味つけはどうでしたかを「良かった」、「悪かった」、「普通」でアンケートをしますが、「普通」を選ばれてしまうことが多いので、「普通」という項目を無くし、「やや満足」、「やや不満」から始めていけば、意見が上振れ下振れするのでよりはっきりした傾向がわかるのではないかと思います。ご検討いただければと思います。

本田委員

漠然とかもしれませんが転出者、転入者共にバスの本数が少ない、医療費が他自治体と比べて安い、高いという話、映画館が無いといったご意見など、転出者、転入者共に共通している意見が多く、私は最後の方の上尾市に対する自由意見に着目しておりました。最近放置家屋についてのご意見が多く、やはり目につくし、居住している人にとってのマイナスイメージなのだろうなと思っています。景観が良くて、通勤に便利だと協調性も良いところもたくさんあたりはしますが、特にバスの本数と、住みやすい、定住化というところで、高齢者に対しても足が必要でありますので、前回もぐるっとくんの本数を増やしたらどうかという意見が出てきたかと思いますが、その辺についてこの貴重なご意見を生かした施策になると良いなと思っています。

事務局

おっしゃるとおり、転出者も転入者もある程度固まった意見が結構ありました。例えばバスの便についてもより利便性の良いバスとなるよう担当部でも検討しているところです。市としても直接の意見をいただく機会というものはなかなか無いので尊重してまいりたいと思っています。

樋口委員

1点確認ですが、本田委員がおっしゃられていた「上尾市に対する意見がございましたら」という項目について、アンケートなので聞くだけであり、市



事務局	<p>から特にその意見に対しての回答みたいなことはしていないという認識でよろしいですか。</p> <p>無作為抽出でのアンケート実施であるため、直接の回答は行っておりません。</p>
池田委員	<p>そもその話となりますが、この定住促進アンケートは20才から49歳までと年代を区切っていますが、先ほどもバスのこと等もご意見が出ていましたが、定住促進とさらに住み続けたいということも大きなテーマになってくると思います。そういう意味では年代を区切ることも必要だとは思いますが、50歳以上であるとか、高齢者人口が増えていますので、その方たちに対しても同様なアンケートを取って調査をすることも必要なことではないかと思えます。資料1の20ページ「第二の人生を謳歌できるまちづくり」の経過の考察で、「高齢者の情報ニーズや生涯学習に対する意欲は依然として高いことが伺える。」という文章が出てきます。ということを考えますと、上尾市に長く住んでいられて満足いく生活ができるような、生涯学習も含めてできるような市にしていくとことが非常に大事なのではないかと思えますので、このアンケートについてももっと幅広い年代を対象にしていくことが必要ではないかと思ひ、提案いたします。また、先ほど出てきました公共交通の充実といった要望がかなり多くなっていますので、それを実行して欲しいと思ひます。それと、もう一つは生涯学習ということに関して言えば、公民館といった生涯学習を進める拠点となる場所があまりにも少なすぎるという問題が出てくると思ひますので、そういう点でもアンケートの対象者をもう少し広げ、佐々木委員がおっしゃられた様に回答しやすく簡略したやり方についても検討していただきたいと思ひます。</p>
会長	<p>アンケートの対象者を20代、30代、40代までに絞ったということに対し、50代以上の方々も含めて調査対象に含めてはどうかということや、先程佐々木委員もおっしゃられた様に、設問が非常に込み入っているということでネット回答の場合離脱率が高くなってしまわないか、もう少し整理されたら良いのではないかとというようなご提案だったと思ひますが、事務局の方から何かコメントいただければと思ひます。</p>
事務局	<p>佐々木委員のおっしゃる「普通」といった真ん中の選択肢があると当然そこに回答が寄ってしまうというのは、今回の結果にも出てきている部分がございますので、次回は改善したいと考えています。また、今回のアンケートの趣旨に戻ってしまいますが、年少人口と出生者数が問題となっている中で、一つには先ほどさいたま市の年少人口の転入が多いという話もありましたように、いかに上尾市に子どもが増えるか、子育て世代を増やすかということが地方創生、総合戦略の肝であると認識しています。例えば3世代同居が望ましいであるとか、そういった政策となると話は変わってきますが、少なくともお子さんと親御さんのいる世帯をどう上尾に呼び込むか、上尾に住んでいる方にどう上尾市に住んでいて良かったと思ってもらえるかと、子ども達をターゲットとして施策を検討していることをまずは念頭に置いて、事務局としては進めているということをご理解いただきたいと思ひます。住んでいる方の負担とならないようなアンケート、設問数のスリム化は当然検討して</p>

池田委員	<p>いきますのでよろしくお願いします。</p> <p>その点では高齢者の転入も増えていますので、そういう施策というのやはり非常に大事になってくると思います。そのため高齢者に対してのアンケートも実施して欲しいと思いますがその辺についてはいかがでしょうか。</p>
事務局	<p>高齢者がいかに生き生きと健康でいられるか等については、それぞれの部署で事業を持っております。例えば図書館においても同様ですが、まずはそれぞれ事業を推進する中でニーズがつかめているかということに対してアンケートは有効だと思いますので、それぞれの部署に今のお話を伝えさせていただきます。</p>
会長	<p>私も対象者を20、30、40代に絞っているのはなぜかと最初思っていました。今説明を受けてそういう見方もあるのかと思う一方で「第二の人生を謳歌できるまちづくり」と、おおよそその高齢者をターゲットとした健康づくりの増進とか、生涯学習等の推進が重点政策として第二期総合戦略にも継承されていくということで、アンケート調査の対象として最初から50代以上を除くというよりは、50代以上も含めてアンケートを実施し、分析の目的に応じて属性を絞ってクロスをかけて分析する等いろんなやり方があるかと思います。最初からアンケートを取っていなかったら50代以降の定住意向に関しての情報が得られないわけであり、その辺りを検討されてみてはと思います。</p> <p>質問に近い確認ですが、資料1の11ページに数値目標「転入超過の数」と、増加傾向で推移してきていますが、経過の考察で大規模マンション建設や区画整理事業によって宅地開発が進んだことが主な要因として考えられますとあり、後段で市が実施している定住促進施策も一つの要因としてあげられるということで、これまでこの審議会でも定住促進施策についての議論があり、また庁内の職員からなるプロジェクトチームを立ち上げてまとめられた施策があり、それらが誘因となって転入超過に結びついているのかどうかを検証する上でもこの定住促進アンケート調査は重要な材料になるはずで、だとするとこのアンケート調査、特に17ページ以降の転入者への設問で上尾市の定住促進政策がきっかけとなって転入されたかどうかを確認できる設問があっても良いはずで、それがどこで読み取れるか、そもそもあるのか、もし無いのであれば今後そういった仕掛けをアンケート調査にした方が良いかと思えます。</p>
事務局	<p>定住促進策の効果検証という点で、資料2の24ページをお願いします。Q24「上尾市の子育て・教育環境で、魅力に感じているものはございますか。」と複数回答でこちらにあげられている項目が定住促進政策としてこの審議会でも取り上げていただいた事業を主に挙げており、この設問を効果検証として考えておりました。また、本市のホームページのトップに「転入をお考えの方へ」というページへのリンクがありますので、それをご覧になって魅力に感じているということが測れると考え、23ページQ20「転入にあたって上尾市についての情報をどのように得ましたか。」という設問としましたが、これがあるから転入したかどうかというのは、22ページのQ17「転入することになって大きなきっかけは何ですか。」について「上尾市の魅力ある取組」を選んだ人は1人でした。この辺りを事務局としては効果検証できる設問と考</p>

<p>会長</p>	<p>えております。</p> <p>22 ページの「上尾市の魅力ある取組」を選んだ人が1人というのは寂しいばかりですがなかなか難しい事が確かにあり、良いことを実施していてもPRが十分でなかったり、周知されていなかったりと様々な要因があるかと思えます。今後第2期でも定住促進施策を継続されていくかと思えますが、それらが実際に転入のきっかけとなったかどうかを検証できるようなアンケート調査票の設計というものを考えていく必要があるかと思えます。</p>
<p>池田委員</p>	<p>今のお話に関連して8ページQ22「子育て支援（子育てしやすいか）」の設問で「わからない」という回答が43人で一番多く、Q23「子どもの教育内容」についても「わからない」という回答が「普通」と同数で一番多く、26ページQ29「子育て支援（子育てしやすいか）」の設問でも「わからない」が62人で一番多く、Q30「子どもの教育内容」についても「わからない」が83人と多くなっています。こういった状況であり、どの様にこれらを詳しく捉えていくかということは今後の課題だと思いますので、そこら辺をもっと関連部署と共有して、もう一度施策を充実させていくことが必要ではないかと思えますがそれについて見解を伺います。</p>
<p>事務局</p>	<p>池田委員のおっしゃられた設問の回答で「わからない」を選ぶ要因は2つあると考えています。1つは例えば夫婦だけで引っ越してきたといった、対象者に子どもがいない場合であるとか、夫婦だけで転出されたという場合、そういった方にとっては子育て環境や教育環境について上尾市では経験をしていないので「わからない」という回答を選ぶ可能性があります。もう1つが池田委員のおっしゃられたとおり、そもそも上尾市ではどういう子育てや教育をしているのかという情報が入ってこないで「わからない」と回答するという2つの場合があると思えます。アンケートの設計にそれが分析できない難があるというのは、事務局としても反省材料として思っております。また、自由回答にもありましたが、情報としてつかめられてない、情報がうまく伝わってこないという意見もありましたので、それは今後改善させていただきたいと思えます。</p>
<p>会長</p>	<p>「わからない」という部分、池田委員がおっしゃられた様な要因があるかと思えます。それを今あるデータで分析するとしたら、例えば転入前、転入後の家族構成と、転入後でしたら20ページのQ7がそれに当たりますが、夫婦のみとか2世代同居といった回答があります。これと先ほどの個々の施策に対する満足度のデータとをクロスで分析してみれば、「わからない」と回答された方々がどういう家族構成なのかはおそらくははっきりしますので、そういったことも試してみたいかと思えます。</p> <p>他に何かございますか。無ければ、議題の(3)「その他」です。事務局より何かございますか。</p>
<p>事務局</p>	<p>様々なご意見をいただき大変ありがとうございました。今回報告した内容については、審議会の経過として今後ホームページで公開します。また、第2回の審議会については、来年2月頃の開催を予定しています。先ほど少し触れた本年度から始まっている第2期総合戦略の進捗管理等について、委員の</p>

皆様からご意見をいただきたいと考えています。事務局からは以上です。

会長

ただいまの事務局の説明に対して何か質問等ございますか。無ければ、これで議事を閉じさせていただきます。進行を事務局にお返しします。

#### 4 閉会

司会

(行政経営部長)

長時間にわたりどうもありがとうございました。それでは最後に長沢副会長からのごあいさつをお願いします。

長沢副会長

久しぶりにこういった会合を開けてよかったというふうに思います。本当に慎重審議でいろいろな意見がお伺いできたかというふうに思います。執行部の方もそれを踏まえながら反映していただければと思います。次回は2月になりますけども、どうかよろしくごあいさつ申し上げまして、閉会の挨拶とさせていただきます。以上で閉会とさせていただきます。大変お疲れ様でした。

以上